



新宮に敷き詰めるお白石を奉獻する 「お白石持」行事に市民こぞつて参加をしましょう



社殿の周りの御垣内には、白い石と黒い石が綺麗に敷き詰められています。白い石を「白石」、黒い石を「清石」といいます。二十年ごとの御遷宮に際し、その御垣内の内院、すなわち瑞垣の内に敷かれる白石を、伊勢の市民の方々が宮川の河川敷から探し集めて奉獻するのが「お白石持行事」です。

お白石持の起源は寛正三年(1462)之内宮の第四十回式年遷宮からだと言文書の記録にありますが、この伝統を受け継いできたのは伊勢人の神宮に対する熱い思いと心意気でしょう。

一般の人々が御垣内の奥深く立ち入らせていたただけるのは二十年に一度、このときだけ。熱気あふれる真夏のお白石持の成功に向けて市民それぞれも熱く燃えることでしょう。



あなたの町の奉獻団は、もう結成されましたか

お白石奉獻まであと三年となつてまいりました。それぞれの町では奉獻に向けて着々と準備が進んでいること存じますが、奉獻団の結成によつて、人々がまとまり奉獻に向けての機運も高まってくるものです。

お木曳に参加して感動を覚えた人もたくさんおみえでしょうが、都合で参加いただけなかった方も、この二十年に度の機会にぜひご参加ください。

伊勢の町で暮らすことの誇りを改めて実感していただけることでしょう。そして御遷宮に向けて伊勢の町がひとつになることを願います。



この夏から秋にかけてお白石を拾いましょう。お白石を拾う、そこからすべては始まります

お白石を拾うことができるのは、紀伊山系の大台ヶ原を源とする宮川流域。ほんのりと温かみのある、子どもの握り拳ほどの大きさの白い石を各町奉獻団それぞれが探し集めます。集めた石は新しい樽に詰めて、各町々のお白石置き場に保管されます。保管場所は氏神様の境内や、公民館の清浄な角に注連縄を張つて安置します。



どんな白石を採拾すればよいのでしょうか

白い石なら何でもよい、というわけではありません。明治四十二年の遷宮に際し書かれた「神宮御料白石献納心得」の五条に「献納白石ハ、清浄ノ場所ニ於テ採取シタル徑二寸ヨリ二寸迄ノモノトス」と規定されています。また、第六十二回のお白石持の記録には、直径75センチくらいとの記載もあります。

二寸から二寸、つまり約3センチ〜6センチ、及び75センチくらいの白い石ということになりますが、白ければよし、ではなく純度の高い石英系の光沢のあるものを採拾する必要があります。見本となる白石の写真を表紙に掲載しておりますので参考にしてください。